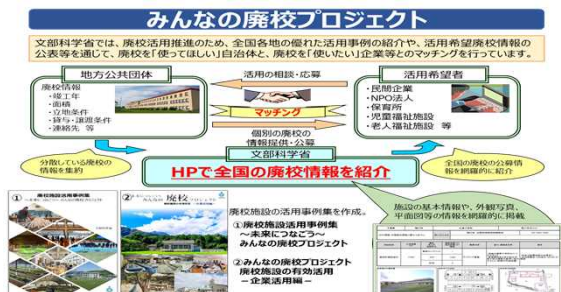


# 廃校活用マッチングイベント（オンライン）開催報告

日時：令和3年10月8日(金) 9:30～16:30 ※オンライン開催  
 参加者：約130名（事業者約80名、自治体約35名、ブース出展者約15名）

## ◆行政説明、事例発表（午前）



行政説明「廃校施設の有効活用について」  
 （野沢 施設助成課長）

全国の廃校活用状況や課題を説明し、「みんなの廃校プロジェクト」の取組や国庫補助制度の紹介等を行った。



事例発表② グランピング施設として活用  
 （千葉県市原市×(株)HAMIRU）

校舎を管理棟や入浴施設、校庭をテントサイトとして活用。地元農家の協力を得て、校舎裏の畑で野菜の収穫体験ができるようにしたり、高滝湖の観光を盛り上げるため周辺施設との連携をスタートさせるなど、地域とのつながりを活かした事業を展開していることが報告された。



事例発表① 自社研修施設として活用  
 （茨城県取手市×前田建設工業（株））

旧校舎の面影を残すことで、学校という誰もがもつ共通体験が社員や利用者同士の親睦を深めることに寄与している。また市と事業者との間で防災協定を締結し、地域の指定避難所としての機能を維持していることが報告された。



事例発表③ 先端技術等開発施設等として活用  
 （福岡県宮若市×(株)トライアルホールディングス）

トライアル AI 開発拠点として、複数の廃校施設をセットにして利活用するとともに、それを「リモートワークタウン」という新しいまちづくりブランディングに結びつけることで、宮若市全体の定住・交流人口増加や地域活性化につながっていることが報告された。

## ◆マッチングタイム（午後）



廃校を使ってほしい9自治体と廃校を使いたい事業者のマッチングを図るため、自治体別のミーティングルームを設け、参加者同士で活発な質疑応答や情報交換が行われた。

<参加自治体> 秋田県横手市、千葉県、千葉県君津市、富山県、三重県明和町、京都府福知山市、奈良県吉野町、鳥取県三朝町、福岡県うきは市